

やましろ

山代地区

(石川県加賀市)

- 計 画 期 間 平成 17 年度～平成 21 年度
- 面 積 45 h a
- 交付対象事業費 1,720 百万円
- 市人口 63,830 人

ポイント

自然歴史を生かし観光資源と温泉街、商店街とが一体となった温泉情緒あふれる【山代】らしい伝統的街並みの創出。

地区概要

地区核施設及び周辺整備により、温泉情緒あふれる街並み創出による湯のまち【山代】の魅力向上と、歩いて楽しい観光地づくりを図る。

目 標

街なかへの自動車の流入を抑制し、公共交通を中心とした人に優しい安全・安心な街づくりを進める。自然、歴史、伝統、文化などの普遍的な地域資源をネットワークするなど、来街者の再訪を促すとともに、住む人が街を楽しみ・誇れる環境を整える。

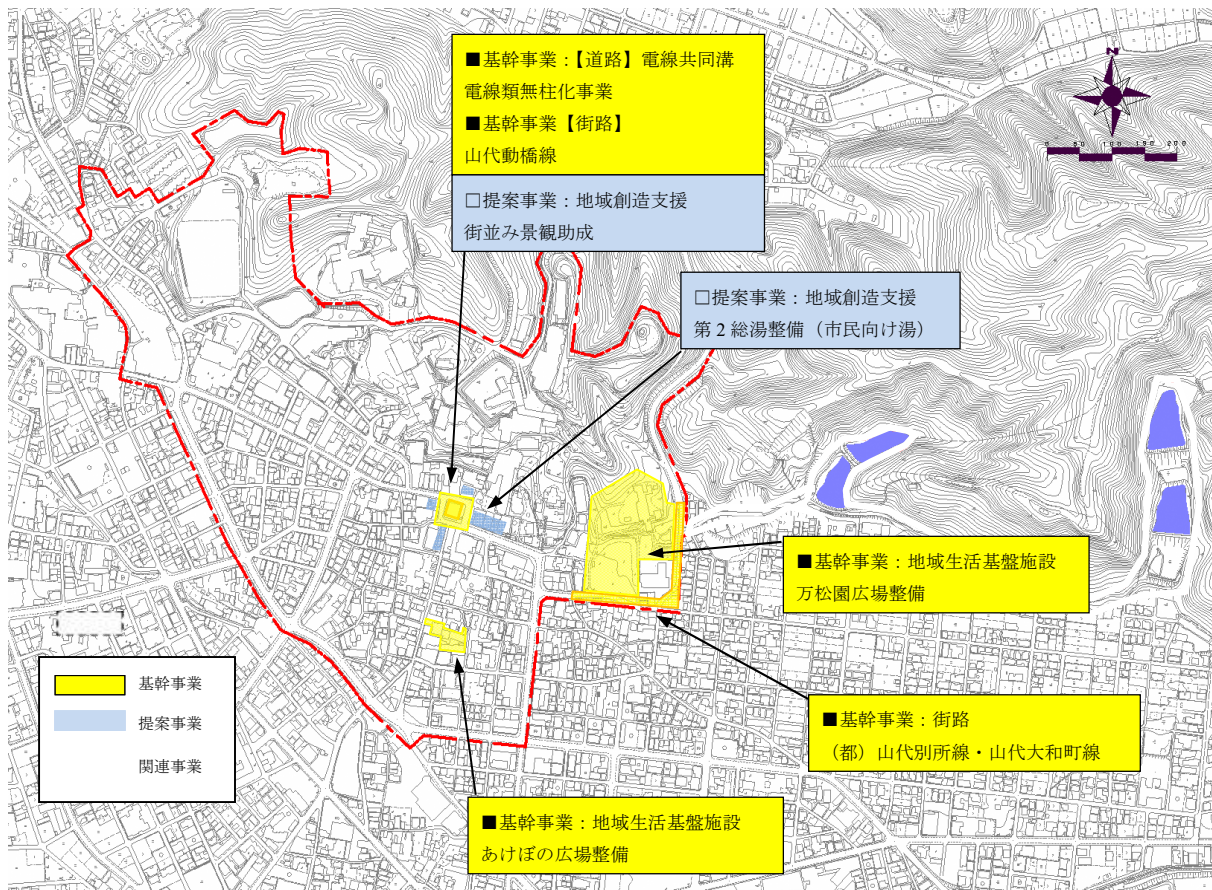
指 標

地区内回遊ルートの確立展開について分かりやすい指標として、山代温泉地区内の宿泊客数と地区中心部のコミュニティ施設の利用者数、散策路の歩行者数を指標としている。

宿泊客数	98 万人/年 (H15)	→	100 万人/年 (H21)
施設入場者数	40,700 人/年 (H15)	→	45,000 人/年 (H21)
歩行者数	48 人/日(12h) (H16)	→	150 人/日(12h) (H21)

事業内容

- 基幹事業 (972 百万円) → 道路(街路 W=9~12m L=320m)(電線共同溝 1 箇所 L=100m)
 地域生活基盤(万松園広場整備 A=2ha)(あけぼの広場整備 A=1,600 m²)
- 提案事業 (748 百万円) → 市民向け湯整備(1 箇所 A=1,397 m²) 景観建築物修景 事業効果分析業務



地区の現況と課題

市の中心に位置し開湯 1300 年の歴史と伝統をもつ温泉観光地として発展してきた計画地は、温泉の顔である総湯を中心とし旅館・商店からなる温泉街と居住空間、男・女生水、薬王院や萬松園（風致地区）などの文化財や景勝地を多く有する。これらは山代八景として観光客や地域住民に親しまれている。また、九谷焼窯跡展示館や魯山人寓居跡などの観光施設も整備され新しい観光資源となっている。当地区の観光協会や商工会では、各種イベントや道番屋による情報発信を行うなど観光客へのサービス向上に取り組んでいる。

平成に入ってから長引く景気低迷や旅行形態の変化等を要因として観光客数が減少や、これまで観光業界（旅館）は個々のホテル内の施設充実を図ってきたが、地区回遊拠点の利活用整備が遅れたため、回遊者（散策者）が減少し、地区活力が低下している。

提案事業の特徴

市民向け湯整備事業

総湯を中心に街並みを形成する全国唯一の「湯の曲輪」の構造を活用し、地域住民や観光客の交流拠点を整備することにより、総湯を核とした街なかの賑わい創出を図る。

まちなみ修景事業

総湯を中心に街並みを形成する全国唯一の「湯の曲輪」の構造を活用し、歴史的街並みを保全・再生により、温泉情緒漂う街並みづくりによる街なかの賑わい創出を図る。

計画策定プロセス

ワークショップの開催

平成 16 年より観光協会を中心として商工会や各種団体から構成される「山代デザイン委員会」により地域・観光振興に寄与する計画が立案され、これまでに各種事業が実施されている。住民によるまちづくりの気運が高まる中で、地域活性化には山代らしさの創出と歩いて楽しい散策路の重要性の認識から、都市再生整備計画の策定にあたっては、これまでの計画をベースに「山代地区まちづくり交付金事業整備計画検討委員会」が実施され計画内容や進め方について協議・提案されている。さらに平成 17 年から「山代温泉ランドデザイン推進会議」「総湯再生検討委員会」を 8 回開催し、山代温泉の中心である総湯を核とした賑わいの創出が議論され、平成 18 年 8 月に総湯及び湯の曲輪周辺整備について整備方針が提案された。その後、平成 19 年より「山代総湯整備検討委員会」を 8 回（継続中）、「山代温泉みち筋デザイン検討委員会」を 7 回開催し、総湯や湯の曲輪の周辺の道路のデザインや総湯を核とした賑わいの創出が議論され、平成 20 年 2 月に総湯及び湯の曲輪周辺整備を中心に整備を進める方針が提案された。



▲ 湯の曲輪・総湯



▲ 市民向け湯（提案事業）



▲ ワークショップ